

職員による自己評価

A環境面

○職員配置は適切だが、臨時利用などの受け入れによって変化する場面がある。

○自己評価シート意味と結果の行方について周知されている

○職員研修の機会は設けられている

B適切な支援内容

○標準化されたアセスメントツールは Vineland-II/KIDS/S-M 社会生活能力検査を使用している。

○ミーティングを行いプログラムの立案と固定化しない工夫をしている。

C関係機関との連携

○子ども部会や放デイ連絡会などに参加して情報交換をしている。

○相談支援事業所との連携を取り、児童の情報共有をお行っている。

D保護者への説明責任・信頼関係

○保護者からの相談はミーティングで共有している。

○保護者会の開催

○支援方法・ツールの紹介などを行っている。

E非常対応

○月1での避難訓練、年1での合同避難訓練、年2の総合避難訓練を実施している

○アレルギーの把握のためアンケート調査を実施

保護者による評価

A環境面

○職員の配置数・専門性は妥当である。

○用紙の余白に「いつも楽しく過ごせる場所と環境を整えて下さってありがとうございます」「いつもありがとうございます。子どもたちにとって信頼できる大人、幼い頃からの友だちが沢山できて大変感謝しています」など記載がありました。

B適切な支援内容

○活動プログラムの固定化に関して昨年「どちらともいえない」の回答が見られたが、今年度は固定化がないことが支持されています。

C事業所からの情報発信

○保護者会が開催できたことにより、昨年に比べ保護者同士の連携が支援されている項目について「はい」の回答が増えています。

○子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮事項に関して支持されています。

D非常対応

○マニュアル周知・説明や避難訓練の有無について概ね理解されているものの「どちらともいえない」「無回答」など徹底まで至っていません。

事業所内での分析

【共通点】

○活動プログラムや固定化については保護者・職員共に固定化はないと判断している。

○保護者への説明責任・信頼関係は保護者・職員共に概ね適切と判断している。

○活動内容や行事予定の共有に関して情報発信が概ねできていると判断している。

【相違点】

○各種マニュアルの存在を職員は把握しているが保護者への発信が必要である。

○保護者回答で「どちらともいえない」が多いため自己評価アンケートについての情報発信を強化する必要がある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 活動プログラムの固定化などがなく、個別活動(マンツーマン)と集団活動(SST)を組み合わせている。
- 今後もこども部会や放デイ連絡会への参加により地域事業所との協力体制を強化していく。
- 個人情報の扱いについては評価されているので今後も強化していく。
- 定期的な研修により職員の意識や知識が向上した。

事業所の改善点

- 放課後児童クラブや児童館との交流や活動をする機会がない。
- 「どちらともいえない」という意見が多いため、保護者への自己評価アンケート実施の理由や説明が必要。
- 支援内容や利用者負担に関して職員の周知を徹底し説明ができるようにしていく必要がある。

事業所の改善への取り組み

○保護者評価の「どちらともいえない」について、より周知や説明をしていくことで「はい」「いいえ」などの回答が増え、備考欄に一言いただけると思われます。また、バリアフリーについても建物的な改善は難しいものの物理的バリア以外も周知していくことが大切と考えております。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度も自己評価シートへのご協力ありがとうございました。昨年、ご意見をいただきました「お迎えの時に混雑してしまうと焦ってしまう」というご意見をいただきまして、順番やスピーディーな引継ぎなど意識して改善に取り組んでおりました。保護者の皆さまには、物理的に玄関が手狭ということもあり、暑い中また寒い中、外でお待たせする場面もありご迷惑おかけしております。いつもご支援ご理解いただきましてありがとうございます。今後とも「こどもありき」を念頭に置き、精進して参ります。どうぞよろしく願い申し上げます。